

MC I 診断 ネットで 今夏めどに商品開発 キャピタルメディカ



古川淳社長

が自身の認知症について不安を持っている層。「MCIチェックリスト」と運動や脳トレなどの「MCI改善プログラム」をタブレット端末で利用できるようにする。完成は今年8月ごろを予定している。

まずは、グループ会社 クラチ(同)で運営する有料老人ホーム入居者に提供し、「認知症にならないホーム、認知症が改善するホーム」として他社との差別化を図る。将来的には、自社ホーム

の高齢者、タイ及で日本の一タルケを開発を行う。対象者は軽度認知障害(MCI)及び、健常だ

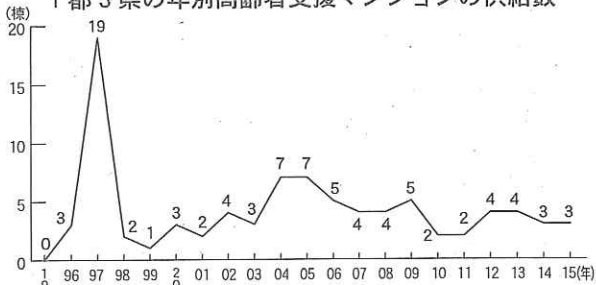
高齢者支援
マンション

首都圏に87棟

不動産経済研究所調べ

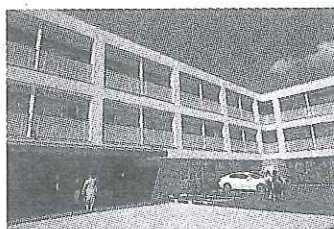
不動産経済研究所(東 調査結果を発表した。京新宿区)は昨年12月、首都圏1都3県で1995年から昨年10月までの首都圏の高齢者支援マンションの動向について調査した。95年から昨年10月まで

1都3県の年別高齢者支援マンションの供給数



マンションは87棟。97年には19棟が供給されたが、それ以降、供給ペースは年間5棟前後で推移。2015年は3棟が供給された。建物内や敷地、または隣地に設けられている施設・設備では、医療診療所・クリニックが30物件、介護・福祉事業所が16物件。住人へ提供しているサービスで

での実績も踏まえ、他社運営施設や自治体への提供を目指す。さらにその後は、インターネットを通じて一般消費者へも提供していく考えだ。クラチの有料老人ホームでも、昨年より入居者の50%がインターネット経由で申し込みをする状況となっており「有料老人ホーム入居者やその家族の年齢層にとって、インターネットは身近な存在」と同社では分析している。



▲クラチが運営するホーム

型の有料老人ホームを、来年春には東京都練馬区で入居金1800万円、3600万円の高級物件を開発予定。その後も年間1〜2棟程度のペースで開設を進めて行く計画だ。

ココチケア合併

ソラスト



石川泰彦社長

ソラスト(東京都港区)は子会社の介護事業会社ココチケア(同千代田区)を2月1日付で合併する。ココチケアは解散し、ソラストの介護事業本部ココチケア事業部となる予定。

は「医療・健康相談・ヘルスケア」が44物件、「24時間有人管理」が15物件、「コンシェルジュサービス」が11物件、「介護サービス」が7物件となっている。



自治体の動向を記事にする際に気になるのが、自治体主権のイベント名などで、本来は漢字の自治体名を、ひらがなで表記するケースが最近とみに多いことだ。なぜ、漢字の自治体名を敢えてひらがなで書くのか?これについて、ある自治体の職員は「親しみを持ってもらうため」「市の名前が読みにくく、書

き間違える人も多かった」と説明していた。全く理解不能だ。親しみを持って欲しいなら、正しい名称を広く伝えることに力を割くべきだろう。読み方や書き方が難しいなら、正しく読んでもらえるまで何回でも説明すべきだろう。職員自身が伝統ある地名を軽んじる自治体に若い人が愛着を持つだろうか。地方衰退の理由はこんなところにもあるのではなかろうか。

「しよ意識は高いと実感している社内です。しかし実際の対策は、フハについてはできていない身にケースが多いです。必要性は感じているが「費用が無い」「人手が足りない」といったのが実態です。いま スタッフ全員のストレスをゼロにする、というのは非常に困難です。費用や人手をかけて大がかりなことをしようと思わずに、まずは各スタッフのストレスをほんのわずかに減らすだけでも軽減することから考えるべきです。極端な話、職場の機の配置を、経営変えるだけでもスタッフのストレスは軽減されるフのことがあります。できることをから始めることが大切です。